

2

都の結核の現状

(1) 都の結核の発生状況

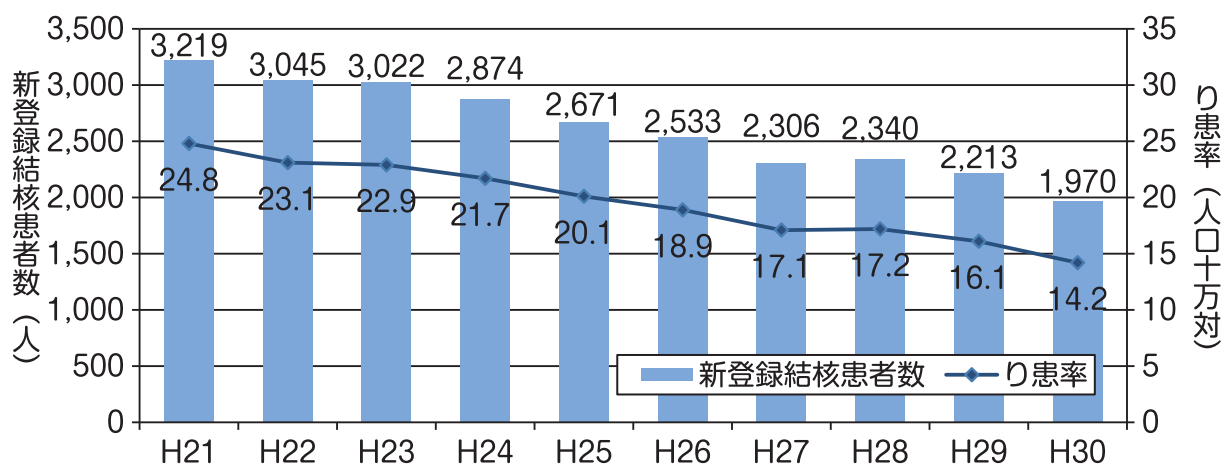
・都の新登録結核患者数やり患率は減少傾向にあるものの、今なお都内では年間約2千人の新たな患者が発生しているほか、り患率も全国と比較して高い状況です。

(表1) 平成30年新登録結核患者数及びり患率 (東京都・全国)

	東京都	全国
新登録結核患者数	1,970人	15,590人
り患率 (人口10万対)	14.2 ^(*)	12.3

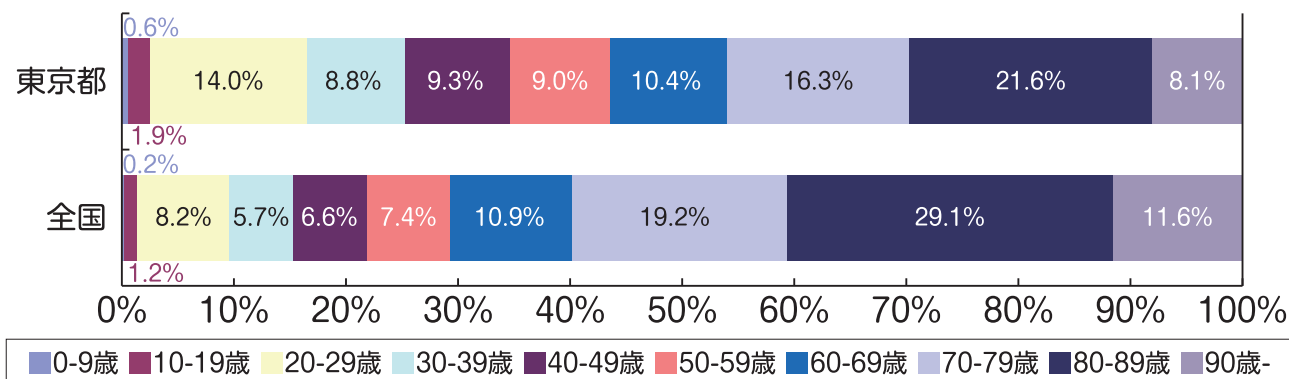
(*) 出典：東京都における結核の概況 (2018年/平成30年)

(図1) 新登録結核患者数、り患率の推移 (東京都)



・結核患者は高齢者の占める割合が高く、都では70歳以上が全体の約46%を占めています。

(図2) 平成30年新登録結核患者の年齢階級別構成割合 (東京都・全国)



(参考) 最新の統計はこちらで確認できます。

東京都における結核の概況 (東京都感染症情報センター) http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/tb/year_tb/

(2) 高齢者施設における結核の発生

- ・結核の既感染率が高く免疫力が低下した高齢者が多く入所する施設では、結核患者が発生するリスクが高く、集団感染となる事例もあります。

高齢者施設（特別養護老人ホーム）における結核集団感染

（令和元年東京都報道発表事例）

事例の概要

高齢者施設で入所者、職員が結核に集団感染する事例が発生。46人の感染が確認され、うち、発病者は10人。

感染拡大の主な要因

- ・初発患者は職場健診の胸部エックス線検査において異常陰影を指摘され受診したが、結核の診断に至らず、治療開始が遅れた。
- ・当該施設入所者に対する結核の定期健康診断（胸部エックス線検査）において、「要精密検査」の結果の者がいたが、その後の精密検査が徹底されていなかった。

- ・感染拡大の要因に高齢者施設と共通の問題があるため、認知症病棟における結核集団感染事例も参考として掲載します。

（参考）認知症病棟における結核集団感染（平成24年東京都報道発表事例）

事例の概要

精神科病棟の認知症病棟で入院患者、職員が結核に集団感染する事例が発生。78人の感染が確認され、うち、発病者は10人。

感染拡大の主な要因

- ・初発患者に病棟内の徘徊行為があり、痰や唾液を他人に浴びせる行為が散見された。また、入院患者の多くが日中を病棟ホールで過ごし、初発患者と長時間にわたり接触があった。
- ・入院患者は認知症で訴えが少なく、周囲が発病に気づきにくかった。
- ・入院患者の多くは糖尿病、呼吸器障害、嚥下障害などの基礎疾患があり免疫力が低下している状態だった。